

『高等学校 古典講読』

発行者番号	教科書の記号・番号
1 5 三省堂	講読 0 0 4

A5 判・192 ページ

< 1. 編集方針 >

- 日本文化の特質を知り、学習者の古典に対する興味・関心を喚起し、生涯にわたって古典に親しむ態度を育てることを意図しています。
- 日本の古典文学の代表として世界的な価値を有する三つの作品「源氏物語」「枕草子」「大鏡」に焦点を当て、学習者が興味を持って学習できる章段を選んでいきます。

< 2. 構成、教材の配置 >

- 平安時代の生活と文化の様相を彷彿させる、物語、随筆、歴史物語という作品の特色を生かした構成としました。
- 場面ごと・章段ごとに学習のまとまりを設け、教材の配列も、学習の流れを考慮したものとなるよう工夫しています。

< 3. 教材選定の観点 >

- 描かれている思想や感情が、時代を超えた普遍的な感動を呼び覚まし、読むという行為の知的な楽しさを実感できるような教材を選びました。
- 「源氏物語」……作品の全体像が鳥瞰できるよう、要所を簡潔に教材化しています。また、内容理解を助け、読む楽しみを喚起できるようなコラムを配置しています。
- 「枕草子」……類従的章段、日記・回想的章段、随想的章段のバランスを考慮しました。また、筆者の感受性や、作品が生まれた当時の宮中の人間関係や価値観が理解しやすくなるように工夫をしています。
- 「大鏡」……「語りの構造」が明確になるよう、冒頭部と末尾の設定に注目できるようにしました。また、作品の背景にある当時の政治や文化、社会の有様について、理解が深められるように工夫しました。

< 4. 言語事項、教材化、学習上の配慮 など >

- 古典の世界が教室の現実在即した形で理解され、生徒たちの日常的な言語活動に生かすことができるよう、内容を精選しています。
- 読解のための資料、学習活動の要点、情報収集の仕方などを丁寧に説明しています。
- 古文のことばに対して関心を持つことができるよう、それぞれの教材に即してコラムや語彙の取り立てなど、古語の体系的学習指導をはかれるよう配慮しました。
- 読解や鑑賞の補助的資料としての写真や図版を、鮮明さ、見やすさを重視して選定し、掲載しています。